社会福祉法人・学校法人　イエス団

Jesus band

# イエス団報

## Jesus band news

2014/12/24

17

再刊 17 号


■ 督明さんと共に
■ リーダーシップ養成研修ステップⅡ
　開会礼拝奨励　黒田道郎理事長
■ 研修報告
■ クローズアップ
　かがわ子ども・子育て支援センター
　事業推進委員会
■ 施設紹介
　空の鳥幼児園　　瞳保育所
　聖浄保育園　　みどり野保育園
■ イエス団の輪っ
　祐村　明さん　　山﨑希充子さん
　家入　理さん　　古川良一さん
　安芸淳子さん
■ トピックス
　ぶどうの木保育園　のぞみ保育園
　特養 真愛たきやまホーム
■ J.B.フェローズ活動報告
■ 表紙写真の解説
■ 編集後記



発　行：2014 年 12 月 24 日
発行者：黒田　道郎
編集・発行：
社会福祉法人・学校法人 イエス団


〒651-0076
兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
TEL：078-221-9565
FAX：078-221-9566
http://www.jesusband.jp
mail to：honbu@jesusband.jp

### ミッションステートメント２００９

わたしたちイエス団の実践は、1909 年 12 月 24 日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

2009 年 12 月 24 日

# 督明さんと共に

**賀川督明**
かがわとくあき
賀川記念館館長
デザイナー
1953年東京生まれ
青山学院大学神学科中退
2010 年神戸の賀川記念館館長に就任
社会福祉法人・学校法人イエス団理事
財団法人雲柱社評議員
兵庫県ユニセフ協会理事
カガワデザインワークショップ有限会社代表

賀川督明さんは、「賀川豊彦献身１００年記念事業」を機に、神戸での活動を始めました。賀川記念館の建築に携わり、ミュージアムの設計を担い、その後も持続可能な社会の実現を目指して、多くの人との交わりの中で活動を展開してきました。その志半ばで去る 9 月 17 日午後 9 時 32 分、召天されました。安らかな眠りをお祈りします。

山梨県都留の自宅にて（2014/5）

## 知性と少年のような無邪気さ

２００９年の「献身１００年記念事業」に加えていただいたのをきっかけに、神戸とのご縁ができました。「マイナスのシェア」「痛みに寄り添う」というテーマを見出せたのも、神戸で出会ったみなさんに触発されたからです。

邑久光明園でのワークキャンプ

## トクさんが気にかけていたこと

それは豊彦が残した負の遺産です。端的に言えば、部落差別とハンセン病隔離の問題。豊彦を褒め称えるだけではなく、改めるべき点は改めて、傷を与えた相手に許しを乞うこと。その許しが受け入れられて和解できなければ、どんなに多くの善い行ないをしても無に等しい。多分、それができるのは肉親であるトクさんだけだから頑張らなくては…と励まし合ってきたのです。トクさん亡き後、その宿題は誰が引き継ぎ、和解をかなえるのか。私もお役に立ちたいと思っていますから、諦めずに前進していきましょう。

邑久光明園でのワークキャンプ

## 痛みのシェア

殺人や虐待は誰もが憎むべき罪ですが、それを犯す人が止むに止まれぬ想いでそこに至ったことを忘れないでいたいと思います。「痛み」を和らげ人を笑顔にするために、痛みに寄り添う人になれるように祈ります。ほんの少しの救いが、罪に転落することを踏みとどまる支えになることを信じています。目の前のニーズに追い立てられながら生きる日々の暮らしの中で、ほんの少しでいいから、大局を見る心の余裕を持ちたい。それが平和を実現し、子どもや孫の世代により良い社会をバトンタッチすることにつながると信じているからです。

豊彦が防貧のためのアイディアを考えたのも、貧しさが人の心を荒廃させ、罪の温床になることを防ぐためだったはずです。あの時代の貧しさと比べ、今の時代の貧しさは水面下に潜んでいる分、厄介です。追いつめられた人が、罪を犯す前に救われる手だてを考えなくてはなりません。

（賀川一枝さん）

## 水と人とが調和したまちづくり

『生田川に小水力発電を作ろうよ』神戸の街の未来をどういうふうに描いていたのか。小水力発電はあくまでもツールのひとつであって、エネルギーをつくりだすことが目的なのではない。エネルギーを地域の人たちがどういうふうに使っていくのか、さらに人がどういう暮らしをしていくのかが目標だったのではないか。

水と人とが共生(調和)したまちづくりを実現したかったと思う。人が生きていく上で水は重要不可欠。現代の人間は水への敬意が薄れているのではという危惧を抱いていた。人間の生の根幹的な要素の水をしっかり見つめたうえで人と水の関わりのあり方を見直していく。小水力発電や生田川の環境整備を通して一つのモデルを作りたかったのだと思う。

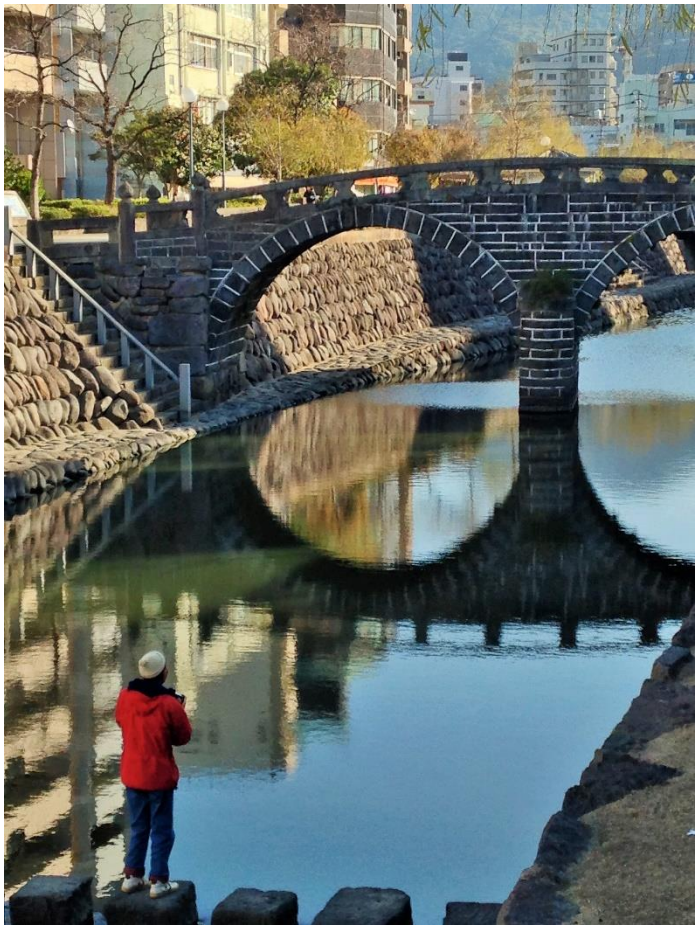
生田川にて(左から西谷さん、督明さん、高田さん)

## 多様性と公(正)平性

神戸という町は多様な文化がいりまざった中での神戸スタイルを確立してきた。しかし、いろんなものがあるからこそ一つ一つの差や区別が生まれて、社会的な問題になることもある。

これからの神戸あるいは日本全体の社会の在り方として、多様性を享受しつつもどうやって公平な社会を作っていくのか？正義が実現されている社会をどうやって作っていくのか、という事を実践しながら実現していきたかったのだと思う。

（神戸市立工業高等専門学校　都市工学科　講師　髙田知紀さん）



眼鏡橋　長崎県にて

## 何かできるって感じる

流域の人と共に、流域の歴史を学び、地域の川を大切にし、海を大切にし、水そのもの、水の循環を大切にしたい。

神戸の玄関口とも言える新幹線「新神戸駅」の下を流れる生田川を生かして、山梨県都留市にあるような「小水力発電」を実現し、環境問題と暮らし、水の循環、暮らしとエネルギー等を考え学ぶ施設を協働で作り上げたい。神戸市中央区の生田川のこと、川のこと、六甲山のこと、神戸のこと、森林のことは、いつも気にかけておられました。

とにかく、人と人が繋がっていけば、何かアイデアもでるし、何かできるっていう思いが、督明さんといると感じられました。

## ESD(持続可能な開発のための教育)

督明さんの目指されていた先は、最近、良く新聞や TV でも見かけることがある ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）そのものだったと思います。ESD に関する兵庫・神戸のネットワークづくりにも尽力されていました。

（賀川記念館総合研究所研究員　西谷　寛さん　海と空の約束プロジェクト 代表）

## 人間はかっこいいと思う人に出会うと成長したいと思うのかもしれません。

11 月 22 日に賀川記念館礼拝堂で行われた督明さんとのお別れ会では、イエス団の枠にとらわれない、督明さんの活動そのものという方々が来られていました。そこでは、督明さんとの別れを惜しみつつも、お別れを伝えるのではなく、異口同音に決意表明をされていました。

『いいね。それやろうよ』と言われるようにがんばります。と

## バトンはすでに受け取ってくださっていましたね。

癌の告知を受け、手術してちょうど 2 年半。「すごく頑張ったネ」と、ほめてあげたい気持ちでいっぱいです。

今年のゴールデンウィーク明けから、急激に病状が悪化し、見る見る衰えていきました。しかし、じっくり向き合うために 4 カ月という時間が与えられました。大好きな山梨の家で過ごした時間は、督さんにとっても私にとっても本当に豊かで幸せな時間となりました。どんどん衰えて、できないことが増えていくトクさんが、以前と比べて少しもあせない魅力を放っているのは、ナゼだろうと考えました。いかに生き、いかに死ぬかについて考え、愛することの意味を、何度も問い直しました。

トクさんの前半生は、豊彦の孫というレッテルから逃れて、自分を確立する葛藤だったように思いますが、時間はかかったけれど、ちゃんと自分を確立して安心して旅立ったのではないでしょうか。

トクさんは天国に移り、苦しみから解放されているのですから、悲しむべきではないのでしょう。しかし、まだまだやりたいことが、いっぱいあったに違いないのです。トクさんの描いた夢を、代わりにみなさんにかなえていただきたい。そのためにトクさんのバトンを受け取ってほしいと願っています。と傲慢な言い方をしてしまいましたが、もう皆さん既にバトンを受け取ってくださっていると実感しました。

（賀川一枝さん）

## いいね。やろうよ！

次に記念会があるとすれば、『頑張ってるよ』と伝える報告会にしたいと思います。それまで天国から見守っていてください。

督明さん愛用のパイプ

# 研修委員会による新たな研修が始まりました
# リーダーシップ養成研修ステップⅡ

施設長、管理職の研修を考えるにあたって、理事会において研修体系検討委員会が設置され、”施設長研修・管理職研修のガイドライン”が答申され、その答申に基づき、「リーダーシップ養成研修ステップⅡ」が計画されました。

2014 年 10 月 24･25 日､六甲山ＹＭＣＡにてこの研修が始まりました。施設長からの推薦を得て、17 名の受講者が参加、強い動機づけを持ち、これから 2 年間学びの時を持ちます。今回はオリエンテーションとして理事長の開会礼拝後、「キリスト教理解」､「賀川豊彦の光と影～賀川理解と我々に問いかけるもの」、そして問題を見極め、解決策をデザインし、アクションプランに結びつけるワークを行いました。

この研修は法人の次代を見据えたリーダーシップの育成を大きな目標とし、これからの法人の継続した質の高い運営を考えた重要な取り組みです。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

委員長　馬場一郎

参加者･スタッフとともに

## リーダーシップ養成研修ステップⅡ

## 開会礼拝　黒田道郎理事長による奨励

**「二人または三人」　マタイによる福音書 18 章ー20 節**

2 日間の研修を始めるにあたり。この開会礼拝でイエス団の「団」という言葉に光をあて、聖書の御言葉から神のメッセージを受け止めたいと思います。

日本語の「団」という漢字ですが、辞書には「一つの組織にまとまっている集まり」と説明されています。またイエス団を英語で表記しますと Jesus band と言います。さらに band を辞書で調べてみますと、大体 2 つくらいの意味があります。一つは縛る、まとめる、拘束するというような意味。例えばベルトのことをバンドと言ったし、ヘアバンドなどのように一つのくくりというものを表すという言葉があります。

もう一つは、フランス語に語源を持つそうですが、仲間とか集合体というような意味を持つ band があります。何かをひとまとめにするとか、一つの目的やひとつの物によって集められているグループ、さらにお互い仲間として一緒に何かをする集まりであるのが band です。イエス団―Jesus band というネーミングを考えますと、私たちのグループはイエスを一つのまとまりにした、イエスを一つの中心に置いたまとまりであるわけです。賀川先生がおそらく命名したと推察しますが、イエス様を中心に信仰を同じくする者、また志を同じくする者、イエス様に倣って生きる者が集まっていろいろな活動に取り組む、これがイエス団のひとつの大きな特徴であります。もし、このイエスというくくりがなければ、たちまちにしてバラバラになるという、収拾がつかなくなるという事にもなりうるわけであります。

キリストの教会はマタイによる福音書 18 章 20 節の言葉をとても大事にしてきました。「二人または三人がわたしの名によって集まっているところには､」と一人ではなく複数の人によって信仰が保たれること。「わたしもその中にいる。」とイエス様が約束されたことを信じるからです。前半の部分ではキリスト教信仰が、一人で貫徹できないことを示します。後半では、私たちの中に（私たちの間に、の意味もある）復活のキリストがおられることを示します。イエス団もこの御言葉が大切になります。復活については丁寧な説明が必要ですが、今日はごく素朴に考えていただきたいと思います。つまり、イエス・キリストが目に見えない形で生きておられる、私たちの間にいらっしゃるという事をいろいろな事柄の

･賀川豊彦の光と影―賀川理解と我々に問いかけるもの

上に考えた時、私たちの考えや、私たちのやることは必ず変わってくるはずです。私たち人間の力や努力だけで事を為しうるのではありません。何かをしようとする時にイエス様も、（私も）その中にいるとなると道が開かれます。「イエス様が一緒である。」これは私が仕える石井教会が関係する光の子保育園で、週 1 回子ども達に対して礼拝で語っているメッセージの中心であります。というよりも毎週毎週､「イエス様が一緒だよ」という事､「イエス様と一緒にあそぼう」､「イエス様と一緒に仲良くしよう」､「イエス様と一緒に喜ぼう」､「イエス様と一緒」というのが、毎回毎回語り続けていることであります。

私たちも、もしここにイエス様がおられたらどうなるだろうかと想像をしてみることも有意義なことです。イエス様がおられたら、この雰囲気をどのように感じられるのかな？とか、この場所をどういうふうに一緒に過ごしてくださるだろうか？という想像をするのです。私たちが日々の生活の中で、いろんなところにぶつかって、困ったり悩んだり苦しんだりする時に自分一人の力でそれを突破し、解決しようとすると必ず限界が来ますが、イエス様と一緒にその事柄にぶつかって行ったときに、道が開けるという事は確実で間違いのないことであります。イエス様と一緒に歩んでいく時に、いやなこと、苦しいこと、つらいことが解決するだけではなく、逆にうれしいことも自分一人の喜びにはとどまらない、イエス様も一緒に喜んでくださる恵みもあります。

朝のつどい

イエス団はイエス・キリストを中心にまとまっている仲間です。イエス・キリストを外せばバラバラになってしまう集団です。いや、もともとバラバラだった者が、イエスの名によって集まったと言えます。イエスの名のもとに二人または三人集まる時に、イエス様もそこにいて下さる。この言葉を子どものように信じ、この言葉に信頼を置きたいと願います。そして一緒に歩んでいきたい。仲間として、戦友として、協力者として。個性豊かな仲間と一緒に歩むことができる、これがイエス団の豊かさであります。これからも Jesus band としてご一緒に歩むことができますことを、私も含めて楽しみにしたいのです。どうかこのイエス団の働きが、それぞれの施設において、しっかりと神様が喜ばれる道を進んでいく事ができるように、祈りたいと思います。

# 研修会報告

## 『研修会を終えて』

この一年を振り返ってみると、やはり、どれほど多くの出会いがあったことでしょう。

新任研修から始まって、ブラッシュアップ研修。そして今年は研修体系が見直され、新たにリーダーシップ養成研修ステップⅠとリーダーシップ養成研修ステップⅡが行われた記念すべき年となりました。リーダーシップ養成研修ステップⅡからは、企画委員会の域を超えるのですが、研修によって多くのイエス団の仲間が自己研鑽できる場を与えられたことは、何より素晴らしいことだと思います。

私たちが、これからどこに向かうのか。

それは賀川豊彦も大事にされたように、イエスに倣って生きる群れとして、社会にあって、MS2009 に掲げる「いのちが大切にされる」「隣人と共に生きる」「違いを認め合える」「自然が大切にされる」社会をつくりだし、私たちが「平和をつくりだす」ことだと考えています。

この様々な研修での学びを、是非、現場で活かして欲しいとスタッフ一同願っています。

そして、疲れたら必ず神さまが休ませてくださることを信じて、今日も元気に歩みましょう。私たちはイエス団の仲間ですから。

「みんな、大好きだよ～！」

企画委員会　研修担当チーム　チーフ

甲子園二葉幼稚園 園長　田村三佳子

＜フォローアップセッション日程＞

リーダーシップ養成研修会フォローアップセッション

2014 年 11 月 29 日

ブラッシュアップ研修会フォローアップセッション

2015 年 2 月 21 日

# 新任職員研修会

2014 年 3 月 25 日（火）～26 日（水）

於：六甲山ＹＭＣＡ

参加者とともに

イエス団一泊新任職員研修は、今年度も自然豊かな六甲山 YMCA で行われ、新任職員は６４名の参加がありました。

講師であるシチズンシップ教育企画代表の川中大輔先生と共に、多くのセッションを体験し学びました。

サポーター（フェローズ）として働きを担った９名の先輩職員にとっても、内容の濃い研修になりました。研修後の感想文から抜粋し、それぞれの学びや思いを紹介します。

## 【研修参加フェローズの声】

**【くずは光の子保育園　石塚由希子】**

たくさんの先生方が新任の皆さんの側に寄り添い、気さくに声をかけておられているのが印象的でした。自分が参加した時の事を思い出し、やはりその時も同じように様々な先生方に声をかけてもらい不安な気持ちが和らいだものでした。研修のお手伝いができて良かったです。

**【ガーデンエル　渡部　由貴】**

「みんな違って、みんな良い」という言葉が本当に良くあてはまるなと思いました。職場でも同様に、いろんな役割の人がいるからこそ成り立っているのだと感じました。

**【愛隣デイサービスセンター　山口　洋介】**

イエスに倣って生きるとは具体的にどのように実践していくのかを新任の方々と共に振り返るよい機会ともなりました。研修内容としては、主に対人援助講義、グループワーク、聖書のお話でした。グループワークでは、新任職員は皆初めて出会う人ばかりで緊張されていました。セッションを幾回か通しイエス団職員としての仲間意識が出来、出会いの気づきの中で新たな考えが構築、変化されていく姿と共に時を同じくすることができました。私も成長させて頂く機会を与えられたことに感謝いたします。

**【甲子園二葉幼稚園　中越　明日香】**

初め園長先生から誘っていただいた時は、私で大丈夫かな？と正直思っていました。周りのフェローズの皆さんがサポートしてくれたり、動くのを見たりして学びました。新人研修に来ているどの人も素敵でした。貴重な体験になりました。他の施設にも見学に行きた～い！

**【甲子園二葉幼稚園　細田佳奈】**

本当に充実した学びに満ちた 2 日間でした。初心に返らせていただいたと共に、たくさんの新発見、新たな視点を収穫できました。一人ひとりの良さを分かち合い、幅がぐんと広がっていく事におもしろさも見出すことができました。「フェローズとして」という漠然としたものから「私ができること」として関わっていく事ができるようになりました。職種、業務は違っても、向いている方向は同じで、多様な中でも刺激しあえる場があることにも感謝です。

**【友愛幼児園　鎌田　真衣】**

まだまだ浅い私の経験が、これからイエス団で働かれる方にとって少しでも役に立つ事があればと、グループワーク等ではお話させて頂きました。「現場の声が聞けて良かった」と言ってもらえた事は嬉しかったです。今の自分を見直すことができました。

**【のぞみ保育園　渡邊　真未】**

参加させていただいた２日間、思っていたよりもとても短い時間でした。参加させていただく中で自分が再認識させられたり、納得させられたりという場面も多くありました。これから自分自身が現場に戻る際、また新たな気持ちで臨めそうな気がします。

**【宇山光の子保育園　荒木　健】**

自分の今までを振り返り、たくさんの出来事を体験する中でどれだけの人から助けられたり、支えられたりしていたのか、そしてたくさんの人と繋がりを持って来たのかを考えました。僕は宇山光の子保育園、イエス団が大好きです。これからもイエス団の一員として働いていきます。

**【ガーデン天使　春名　淳】**

楽しかったです。笑顔で「いいですよー！」「私達がやりますのでー」と縁の下の力持ちをしてくださったフェローズの皆さまありがとうございました。新任の方々と共にすごし、フェローズの方々とも一緒に居られて、とても学びの深い研修になりました。

今回参加の9人のフェローズ

報告：企画委員会　研修担当チーム

杉の子保育園 園長　今村優二

# ブラッシュアップ研修会

2014 年 6 月 13 日（金）～14 日（土）

於：六甲山ＹＭＣＡ

参加者とともに

2014 年 6 月 13 日（金）～14 日（土）の 2 日間、あじさいが咲き誇る自然豊かな六甲山 YMCA でブラッシュアップ研修が行われました。この六甲の自然の中で行うことは、この研修の一つの目的でもある、「参加者の方々が日常の現場から離れ自分を見つめ直す」には最適の環境でありました。

講師はシチズンシップ共同企画　代表の川中 大輔先生、参加者は 17 名の有意義な研修でした。

開会礼拝では、『私の隣人～寄りそうこと』として「私たちは神様から愛されている。ひとりひとりはイエス団の仲間」であるというメッセージをいただきました。

このメッセージを基に「私の仕事とキリスト教」のセッションでは、川中先生の司会のもと、キリスト教との出会いや神の愛についてスタッフ 2 人のトークセッションを行いました。神様を身近に感じる出来事が人生の中ではたくさん起こります。私自身のその神様との出会いや恵みを、参加者の皆さんに聴いていただく良い機会を与えていただいたことに感謝いたします。キリスト教を難しいものとして捉えるのではなく、「ああ、そのままでいいのだ。」「難しく考えなくていいのだ。」と身近に感じられたことでしょう。神様から愛されている喜びを感じ、現場で自分に何ができるのか、できることから実践していっていただけたら幸いです。

参加者の方は出会ってすぐは、笑顔も少なく固い表情をされていましたが、セッションが進むにつれて思いをそのまま素直に出し合い、心が徐々に解き放たれていくのが感じ取られました。これは、自分自身の抱えている悩みや思いを仲間と共有する事で、「皆同じ。私だけではないのだ。」と感じ、不安が自信へと変わり、仲間と信じ合い頑張っていこうという思いを強く持つことができたからではないでしょうか。

屋外でのセッション

閉会礼拝では、平田常務理事より法人にとって最も大切な柱である『イエスに倣って生きる』ということを伺いました。これは真にキリスト教社会福祉の実践であるということ。最もしんどい人、苦しんでいる人たちに寄り添われたイエスの生きざまに倣っていくこと。また、イエス団の〝Ｊバンド〟は「イエスを中心にして、私たちはしっかりつながっている！」ということを話していただきました。私たちはイエス団の仲間として強い思いを心に感じました。自分のミッションステートメントに思いを繋いで職場の中で私たちが『イエスに倣って生きる』ことを実践すること、このイエス団で働く喜び、個々の賜物を活かせることの嬉しさを感じ、「また頑張っていこう！」と仲間と共に励んでいくことを誓い合いました。

川中先生の心に残ったメッセージをお伝えします。

「愛はすべてを完成させるきずなです」の聖句（コロサイ３－１４）より、「職場の中で互いを大切にすること。」「絆の大切さ」、その中で互いに大切にされる思いにより、「愛が伝わっていく。」人にも伝えよう、絆を！

報告：企画委員会 研修担当チーム
くずは光の子保育園 園長　柴田弘子

## 【研修参加者の声】

6 月 13 日の金曜日、イエス団に連なる 17 名が、ブラッシュアップ研修のために六甲山 YMCA に集められました。

六甲山 YMCA は、青々とした森に囲まれた静かな環境にあり、自分たちの日常の働きを振り返るこの研修にもってこいの場所だと感じました。

まず、この研修に参加する 1 人として、自らの研修に対する思いを語るところから始まりました。この研修を通じて、新しくそれぞれの施設でリーダーとしての役割を果たしていくために、以下の事柄を学んでいくことが求められていると感じました。

～それぞれの施設において、私たちの役割と使命について学ぶ
～イエス団の基本理念について理解を深めていく
～個人のリーダーシップ能力を高め、それを発揮できるようになる
～自己の成長のために何が必要かを学ぶ
～他施設の方々との交わりを深め、他施設の働きについて理解する

＜１日目＞

到着後、グループに分かれて歓談しながら昼食をとりました。その後、再び礼拝のためにホールに集まり、聖書を読み祈りと賛美を捧げました。

賀川豊彦の紹介、オリエンテーションの後、４つのセッションが行われました。セッションでは、それぞれの参加者が、自らの仕事について振り返ることから始め、それぞれの働きがより良く展開されるために、自分を見つめなおすことを行っていきました。すべての参加者が、グループ討議の中で自分のベストを出していたと感じました。ただ、私は日本語が十分に理解できないことから、自分の考えを伝えることが難しく感じる場面もありました。

夕食交流会は、楽しい雰囲気の中で行われ、よりリラックスすることができ、参加者がお互いに理解を深め合う時間となりました。それぞれの参加者が、施設での最近のハッピーニュースを、絵や写真を使って紹介し合い、とても楽しいひと時でした。

＜２日目＞

朝食の後、屋外でセッションを行いました。私たちの仕事とイエスとの関わりについて考える時間となりました。田村三佳子さんと柴田弘子さんを通して、イエスキリストとの出会いについての証を聴くことができました。少し肌寒かったのですが、とても心地の良い時でした。

昼食後は、ミッションステートメント 2009 への理解を深めていくセッ

ションを持ちました。イエス団のミッションステートメント 2009 についての議論を行うことはとても、挑戦的であり興味深いものでありました。

セッションの中で、ミッションステートメント 2009 をモチーフに愛隣館の「Love&Peace 委員会」でつくったテーマソングを披露させていただきました。「漕げよマイケル！ハレルヤ！」「命大切に！ハレルヤ！」「隣り人と生きる！ハレルヤ！」「違い認め合う！ハレルヤ！」「自然大切に！ハレルヤ！」「平和つくりだす！ハレルヤ！」

M.S2009 テーマソング by 愛隣館 Love&Peace 委員会

最後に閉会礼拝を行い、それぞれが御言葉からの励ましを受けて終了いたしました。

来年の 2 月にフォローアップ研修が行われると聞き、今からとても楽しみにしています。この研修のためにご尽力くださった皆さま、及び参加された一人ひとりにこの場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。私にとって、かけがえのない特別な時間であったと感じています。

【愛隣デイサービスセンター　Victor Peterson ビクターピーターソン】

## リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2014 年 8 月 28 日（木）～8 月 30 日（土）

座学　：　エルイン京都会議室、京都テルサ視聴覚研修室

フィールドワーク　：　希望の家カトリック保育園

地域福祉センター希望の家

京都コリアン生活センター「エルファ」

東九条まちづくりサポートセンター「まめもやし」

### 『今年もまた東九条に来られて本当に良かった』

この 3 年、続けて同じ京都東九条のフィールドワークを中心にしたプログラムでの研修をおこなっています。

今年度の参加者は 13 名で、8 月 28 日（木）～30 日（土）の、これも例年通りの二泊三日でした。二泊三日のプログラムということで、参加したくてもしにくいという声もあるようですが、そこで参加者一人一人が得られた経験や思いは、それぞれの施設に戻ってからの業務の中で大きな糧となることだと思っております。その糧は三日間で食い尽くせるものではなく、各々の施設に戻ってからの、これからの何年、何十年と続くであろう業務において力強く歩んでいける力を与えてくれると信じております。

一日目は東九条の歴史を学び、二日目は歩きながら生の空気を感じ、直接その地域の方々のお話を聞き、夜にはお腹もいっぱいに満たされ、参加者たちは様々な角度から揺さぶられます。そこから、思うだけでなく、感じるだけでなく、満腹になるだけでなく三日目には「自分たちは自分たちの現場で何ができるのか」と問われることになります。

ミッションステートメント 2009 の実現にはその思いを共有することから、「社会をつくりだす」ことが必要です。あっと驚くような大きなことでなくても、自分たちから始められる何かがあるはずです。それが、参加者一人一人がこの研修の中でつくる自分たちのアクションプランです。このアクションプランが参加者だけの思いに留まらず、施設長や他の職員との協力のもとに拡がりそれぞれの施設で実現されることを願っております。

その一つ一つの積み重ねが必ずイエス団の糧となっていくはずです。

報告：企画委員会 研修担当チーム

京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」　太田　正人

### 【研修参加者の声】

正直なところ、参加すること自体が僕にとっては、好奇心をそそられる刺激的なことでした。まず、京都に行くのに新幹線に乗るのに興奮しました。

さて、いざ研修が始まるとやはり、好奇心の赴くまま、ほかの施設の仲間や訪問先で出会う人たちと可能な限りコミュニケーションを交わし、そしてあることに気づきました。

それは、『つながる』ことの大事さです。

へき地に存在する我が施設からは、これまでなかなか他のイエス団の仲間と交流する機会に恵まれませんでした。そういった意味で今回は貴重な体験となりました。

研修の本題は、自身で問題提起した課題について、その問題解決に向かって、誰が・いつ・どこで・どのように・何を取り組むかをプランニングしてゆくことで、リーダーシップスキルの向上を目指すと理解しました。しかし、それもさることながら、そのことを行う第一歩はまず、問題となりうる課題と自身が『つながる』事であると感じました。

中国の古典文学の中の『呻吟語』という書物の中に、『隔之一字、人情之大患』という言葉があります。『隔たりをもって物事や人と対するは、人間として大きな患いである。』という意味で、僕の好きな言葉です。

常に、『つながれる』ように、心をオープンにしておくことが大事なのだとあらためて気づきました。

【豊島ナオミ荘デイサービスセンター　清水正樹】

完成予想図（外観）

# クローズアップ　かがわ子ども・子育て支援センター事業推進委員会

## 1. センター構想の始まり

瀬戸内海に浮かぶ豊島に、香川県唯一の乳児院・豊島神愛館があり、坂出市には、保育園・坂出育愛館があります。このほど、この二施設が新たに坂出市に複合施設が開設されることになりました。

具体的な姿を見せるまでに多くの先人の働きがあり、支えがあったことを記してその歩みを振り返ります。

村田哲康先生（当時四国学院大学教授）を長に豊島神愛館事業検討委員会が設けられ、1999 年 4 月に『「豊島神愛館」における今後の事業展開への具体的提言』を理事長宛てに提出されています。

これを受け、2008 年には、豊島神愛館移転検討委員会が黒田道郎先生（当時イエス団理事）を長に設けられています。

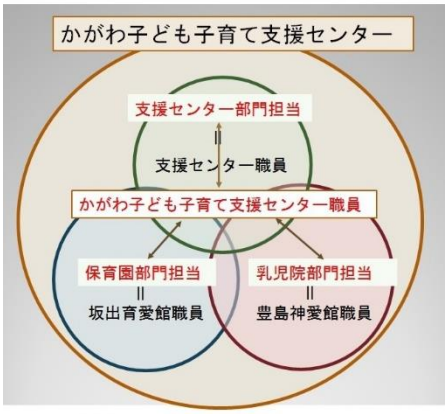
この時期、社会的養護体制の在り方が検討課題になり、香川県においても香川県社会的養護体制のあり方検討委員会が設けられ、報告書が 2012 年 12 月出されています。当然香川県下に 1 ヶ所しかない豊島神愛館の在り方も検討されています。幸い長くイエス団に奉仕を頂いていた村田哲康先生が、この香川県の検討委員会の長に就任され、多くの助言を頂くことができました。

移転問題が検討されているおり、2010 年 3 月坂出育愛館の耐震診断の結果が明らかになり、2011 年 3 月の理事会に「かがわ子ども・子育て支援センター事業構想（案）」が答申され、これまでの豊島神愛館・坂出育愛館将来構想委員会は役割を終え、標記センターの事業推進員会が設けられ、具体的な構想実現のために、2011 年 4 月から活動を開始しています。

このような経緯の中、両施設の創設者吉村静枝先生の故郷である坂出市内に、大変恵まれた環境にある土地を与えられえました。委員会における様々な議論を得て、『かがわ子ども・子育て支援センター』の骨格が固まってきました。

## 2. センターが目指している働き

この地でどのような働きをなすのか。今の社会で強く求められている地域の中で生きること、従来の乳児院・保育園の働きを越え、香川県中讃地域で何が出来るか。具体的な姿は、今年7月に、黒田信雄先生・平田義イエス団常務理事から全職員に説明がありました。右図がその事業イメージ図です。




これまで以上に、地域との関わりを具体的な形で、実践できるか問われています。

乳児院部門に所属する専門性を持った職員の力や保育園部門がこれまで地域と連動して行ってきた様々な活動を、この地域支援センター部門に於いて生かし、様々な社会・地域の問題・課題に取り組み、地域の人々と共に歩む存在となることをめざしています。

更に、2015 年 4 月から施行される子ども子育て支援新制度の中に示されている、地域子育て支援事業の中に、子育て短期支援事業が含まれています。この事業は、乳児院の機能があればこそ出来ることであり、この三者の部門の連携により、地域の人々と共に歩む存在となることが出来るのではないかと考えています。

## 3. 新たな地での取り組み

乳幼児への専門性を生かして社会的養護に取り組んでいます。

1. 入所児が安心して健やかに成長できるように、家庭的雰囲気の中で、養育者に愛され穏やかに成長できるように小規模グループケアを行います。
2. 保護者が安心して子どもを預けられるように養育不安、精神的不安など保護者が抱える痛みが解消できるように、家庭支援専門員・心理士がサポートします。
3. 地域で子育てしている保護者を支援するために、子育て短期支援事業などを行います。（一時的に子どもを預かる事業など）
4. 養育里親を希望される方が安心して乳幼児の養育ができるように研修を行ったり、育児相談を受けたり、また、直接家庭訪問を行うサポートも行います。
5. 支援センターとの連携によって、育児相談や保護者支援を行います。

## 4. 子どもの最善の利益を求めて

地域社会における子どもに関わる問題・課題を受け止め、子どもが安心、安全に暮らせる社会はもとより、子どもの最善の利益が満たされる社会作りに貢献します。

1. **子どもの居場所作り**　放課後の居場所のない子ども達を抱えた子育て家庭にサービスを提供します。
2. **ひろば事業**　乳幼児を持つ保護者が集まれる場所の提供を行います。県生涯学習課などとの連携事業（親同士のワークショップなど）
3. **地域ボランティア育成**　子どもの居場所事業を応援したり、育児中の保護者をサポートするボランティアの養成を行います。
4. **研修会・講演会・講習会などの事業**　子どもに関する諸問題・課題について学び、理解を深める。

「かがわ子ども・子育て支援センター事業推進委員会」メンバーは以下の通りです。（敬称略）
委員長：黒田信雄、石原正彦、小野昌二、品川卓也、谷口浩美、田岡三千代、中野陽介、西山善樹、藤澤孝子、好崎志保、平田義、中田一夫、山下茂雄

（坂出育愛館　西山善樹）

(仮称)かがわ子ども子育て支援センター　所在地

# 施設紹介

## 児童発達支援センター

# 空の鳥幼児園

データ
〒612-8141　京都市伏見区向島二ノ丸町 151
TEL：075-622-8545　FAX：075-622-8546
E-mail：airinkan@garnet.broba.cc

京都市南部にある向島ニュータウン内に、京都市の委託を受け、知的障がい児通園施設として 1978 年に設立されました。

併設の野の百合保育園とは廊下で続き、互いに行き来できる環境の中、障がいのある子どももない子どもも共に育ちあうことを大切に、設立当時から統合保育を行ってきました。

同じ敷地内には障がい者通所施設やホームヘルプ事業、相談支援事業所などがあり地域の方々から「愛隣館」と親しまれています。地域の方々との交流を大切に考え、愛隣館にっこりフェスティバルや敬老会、地域活動に積極的に参加し、地域の方々に愛される施設となるよう愛隣館職員一同励んでいます。

現在、2 歳から就学前までの心身の発達支援が必要な子どもが 46 名通われています（定員 30 名）。初めて保護者から離れて通う単独通園施設ですので、子どもや保護者の皆様が安心して毎日を楽しみに通っていただけるよう、心温かい雰囲気と明るい笑顔あふれる幼児園でありたいと思っています。毎日バス・送迎車、保護者の送迎で元気良く登園してくる子どもたちです。

近年、医療的ケアや人工呼吸器の子どもも増えており、在宅ではなく「園で同年齢の子どもたちと共に育ってほしい」という保護者の思いに応えています。様々な特性のある子どもとの出会いから、多様なニーズに合わせた療育を展開できるよう、色々な職種の職員が連携し合っています。

園にはゆったりとした小集団療育のクラスと、保育園の子どもたちと過ごす統合クラスとがあり、集団生活の中でも「一人ひとりを大切に」した療育を行っています。

入園当初はドキドキしていた子どもも、職員やお友だちとの楽しい活動の中で、大好きな遊び・場所を見つけたキラキラした笑顔は私たちを温かい気持ちにさせてくれます。自信をつけ、新たなことにチャレンジする姿は私たちに感動を与えてくれます。一人ひとりの子どもが持っている賜物を、自分らしく表現し、保育園の子どもたちと共に活き活きと過ごしている様子から、「子どもは子どもの中で育っていく」事の大切さを実感する毎日です。幼児園での経験が子どもたちの根っこになり、「一人ひとり違っていていいんだ。自分のことも大好き！お友だちのことも大好き！」と感じ、育ってほしいと思っています。

園での実践が、ミッションステートメント 2009 の「違いを認め合える社会をつくりだす」働きとなるよう、空の鳥幼児園・野の百合保育園の職員で一人ひとりを大切にした統合保育を目指し、発信し、これからも努めていきたいと思います。

# 瞳保育所

データ
〒761-4661　香川県小豆郡土庄町豊島家浦 2507
TEL：0879-68-2005 FAX：0879-68-2005
E-mail：sinaikan2@diary.ocn.ne.jp

秋の遠足（YMCA 余島野外活動センター）

瀬戸内海に浮かぶ香川県豊島に、瞳保育所はあります。人口 900 人余りの小さな島には海と山に囲まれた手つかずの自然が残っており、四季の変化を肌で感じることができる美しくおだやかな島です。産業は農業と漁業が中心の静かな暮らしです。

２０１０年に始まった瀬戸内国際芸術祭以来、少しずつ島を訪れる人が増えています。

今ではアートの島として紹介されることが多いのですが、島には同じくイエス団が運営する特別養護老人ホーム「豊島ナオミ荘」、乳児院「豊島神愛館」と、別法人ですが知的障害者更生施設があり、その成り立ちから「福祉の島」としても有名です。

島では早くから酪農を行なっていたのでミルクの島と呼ばれ、戦後の混乱のなか乳児を連れて豊島に渡り、乳牛のミルクで子ども達を育てたのです。それが乳児院豊島神愛館の始まりです。瞳保育所も神愛館に併設されていましたが、２００４年豊島幼稚園の閉園に伴い土庄町からの要請で場所を移し、幼稚園部を合わせた保育所として新たにスタートしました。現在１４名の島の子ども達が元気いっぱいに過ごしています。

豊島の人口の減少に伴って、瞳保育所の入所児数も減っていますが、みんな家族のようにつながり兄弟のように育ちあっています。

子どもたちは卒園すると、保育所の隣に建っている豊島小学校に入学します。今年はその豊島小学校の子どもたちと交流を深めています。小学生の中から「瞳保育所の子どもたちと何か面白ことをしたい。」「次に入ってくるピカピカの一年生が自信たっぷりで小学校に来られるように一緒に遊んで仲良くなりたい！」と、嬉しい声を聞かせてくれました。

そんな交流の中から、手紙のやりとりが始まりました。「今度一緒に遊ぼうねー！」と書いていた手紙が、いつの間にか「この間は、月がきれいでしたね」「カゼに気をつけてね」と相手を思う言葉を添えてのやりとりになっています。

小学生と竹キャンドルづくり

子どもたちは友だちを作ることがとっても上手です。保育所の子どもだから、小学生だからという垣根をあっという間に超えて一人の人として、相手を思い合っています。ここにも、私たちの目指す保育があるように思います。

豊島の子どもたちも職員も学校の先生も、地域の人たちも家族のように、兄弟のように寄り添いながら豊島で育ち合い、子どもたちと共に歩んでいます。

小学生とじゃがいも植え

←浜をのんびり散歩

# 聖浄保育園

データ
〒544-0022　大阪市生野区舎利寺 3-9-10
TEL：06-6731-5713　FAX：06-6712-6389
E-mail：seijyo@dance.ocn.ne.jp

大阪生野の地に賀川豊彦が汎愛教伝道教会の設立後、１９３７年（Ｓ１２年）４月、社会福祉会館「聖浄会館」として開設されたのが聖浄保育園の始まりです。

保育園は園児数５０名、保母３名から始められ、当時より給食を行い、戦時中も欠かさずに行っていました。１９４５年（Ｓ２０年）６月、大阪大空襲で生野教会とともに園舎は全焼するが、多くの祈りと、献金が捧げられ、１９５１年５月に児童福祉施設の認可を受け、聖浄保育園として復興しました。ベビーブームの時代には、１９６６年、１９７４年に鉄筋コンクリートの園舎に建て替え、乳児の受入を行い、定員３００名とし、地域の児童福祉に貢献しました。１９９０年を過ぎると、生野区の人口減少と保育園数の増加により、園児が減少しはじめました。

１９９５年、職員一同で聖浄保育園の再建に向け、保育の見直し、運営見直しを図りました。大きな変化としては、「日々の保育を大切にする。」「新たなニーズ延長保育の取り組み」などがあげられます。特に延長保育は、１９９９年は午後７時まで、２０００年からは午後９時までとしました。また正規職員を配置し、家庭的な雰囲気を大切にし、しかし、「基本は家庭」と保護者に理解してもらいながら延長保育を進めました。

そして２０１０年３月に老朽化した園舎を木造２階建ての園舎に建て替え、現在に至っています。

現在園児数は１４１名、職員・パート３０名です。

今年度は保育主題を「はぐくむ」副題を「いっしょに」とし、違いを認め合い、一人ひとりが大切にされ、愛されるように共にはぐくみ、育まれる保育を目標としています。

保育として、３，４，５歳児の縦割り保育の充実、乳児クラスでは、担当制を取り入れる方向で、職員が担当制研修会に参加をしたり、施設見学、また部分的に担当制を取り入れ保育をしています。

これからの時期はたくさんの行事が隙間なくやって来ます。11 月の中旬は感謝祭。子どもたちの祖父母の方、近くの老人ホームのおじいさん、おばあさんをお招きし、共に収穫を感謝し、楽しいひと時を過ごします。その日の午後からは、いつもお世話になっている文房具店、病院、交番などに、お野菜や果物を届けます。

この様に地域の方々との交流、ふれ合いを大切に聖浄保育園は、「イエスに倣いて、愛の業を実現する。」を目指し、職員一同一丸となって、頑張っていきたいと思います。

夏まつり

収穫感謝で交番はじめ公共施設を訪問

豚汁パーティーの一コマ

# みどり野保育園

データ
〒660-0892　尼崎市東難波町 1-2-12
TEL：06-6401-2246　FAX：06-6401-8030
E-mail：midorino@cwa.bai.ne.jp

みどり野保育園は、１９７９年に「日本キリスト教団　尼崎教会」を母体として設立されました。

当初は地域の再開発に伴い工場跡地を住宅団地と公園、そして保育園にという計画の中で公立私立の保育所、保育園が次々と誕生した時代でもありました。住みやすい、子育てに都合の良い、そんな尼崎の街づくりに私たちは保育を通して参与し、初代園長が目指した「地域に根ざした保育園」を目標に、今も職員一同力を合わせて頑張っています。

その地域の方々との関わりを深める為に、設立以来ずっと続けてきた、年に一度の大イベントの「秋祭り」があります。「保護者と職員の会」が主催となって、毎年９月の第一土曜日に開催しています。子どもも大人も楽しめるように、あてもの、宝つり、ヨーヨーつり、コイン落とし等のゲーム類の他、焼き鳥、フランクフルト、焼きそば、炊き込みご飯等の食べ物関係、そしてドリンクはジュースの他にちょっと大人のお楽しみとしてチューハイと発泡酒も加えています。

さて、これらの値段は、なんと 50 円～150 円という今時のお祭りでは考えられない驚異的な安値で、儲けは考えないというのがモットーです。何と言っても、安くないと売れない『尼崎の町』ですからね…。それでも、材料費はすべて「保護者と職員の会」の会費で賄っているので、保護者の役員さんたちは、赤字を出さないように努力をして下さっています。地域の方々を対象にするので、準備する景品や、食材はどれも 200～300 人分、焼き鳥に関しては 1000 本近い数です。当日は、朝から食材の買い出し、仕込み、午後は、やぐら立てにちょうちんの配線、各夜店

の設営など園児のお父さんや、教会からも設営関係につよい男性陣の協力の下、準備を進めていきます。お母さんチームは 200 個のヨーヨーのフーセン作り、又ジュース類は持ち寄りの氷で冷やします。夜店は保護者が前半後半の交代制、職員は最後まで入りっぱなし…、時には中高生になった卒園児が手伝いに来てくれることもあり、うれしい限りです。焼き鳥は尼崎教会の青年達が、毎年汗を流して焼いてくれます。台所では焼きそばと炊き込みご飯の製造とパック詰めで、てんてこ舞い。ここでも教会関係の方々の協力が影の力となっています。夜店は 17:30～19:00 までですが、この１時間半という短い時間に、準備した景品も食材も殆ど売り切れてしまいます。最後は、保育園の子ども達の盆踊りで締めくくり秋祭りは終了。これが、例年の秋祭りの流れとなっています。

ところがここ数年、お天候に悩まされるようになりました。大量の食材を準備するので、出来るだけ延期や中止は避けて来ましたが、数年前台風で一度だけ泣く泣く中止にしたことがありました。
今年は、特に不安定な天候が続いていたので、どう対処するか慎重にならざるをえませんでした。

予定の９月６日(土)は、やはり不安定な天候で夕方からの降水確率が高く、次の日は晴れという予報でしたので、保護者役員の会長さんと話し合って、翌日の日曜日に延期を決めました。

延期するのは、開園以降初めてのことで、教会の午後の予定は変更となり、礼拝が終わってからの準備は本当にあわただしく大変でしたが、予報通り晴天には恵まれて、何とか無事に開催することができました。

今回は、保護者の方々の協力と共に、尼崎教会の奉仕の方の働きがなければとても出来なかったことです。延期になったことで、予想外に例年より人出が少なく、食材や景品がたくさん残ってしまったことは、今後の課題となりました。

この秋祭りをいつまで続けることができるかわかりませんが、どんな形にせよ地域の方々との交流を大切にしながら、これからも「地域に根差した保育園」として、頑張って行きたいと思います。

主任保育士　　髙見真澄

# イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題しましてリレー形式での投稿。理事・評議員さんからおひと方、今回から一般職員は、各ブロックよりおひと方ずつ寄稿していただきます。

５回目は、理事の馬場一郎さんから、理事の祐村明さん、京都ブロック：武市奈美・石垣美穂さん（桃陵乳児保育園・桃陵保育園）から山﨑希充子さん（ぶどうの木保育園）、四国ブロック：近藤和美さん（光の子保育園）から家入理さん（豊島神愛館）、大阪ブロック：山口沙佳江さん（天使保育園）から古川良一さん（聖浄保育園）、兵庫ブロック：関紀美子さん（友愛幼児園）から安芸淳子さん（一麦保育園）です。

**社会福祉法人イエス団理事**
**祐村　明**

## 「生かされて」

齢７２歳を越しまだ元気に生かされ、活かされている喜びを日々感じております。そこで私がイエス団に関わって生きてきた歴史を少し述べさせて頂きます。

その一つ目は神戸イエス団教会での信仰生活者として、二つ目は法人理事として、三つ目は民生児童委員をはじめとする地域福祉活動者として今も生かされている事です。その働きの源は何と言っても教会に繋がったからでしょう。

思い起こせば６５年前、戦後間もなく疎開先の大阪から親戚を頼り神戸市葺合区吾妻通６丁目（現中央区）に帰ってきた事に始まります。その年のクリスマス、神戸イエス団教会に行って飲ませて頂いた一杯のココアの美味しさにつられてそのまま日曜学校に通うようになりました。その後教会の青年会活動をしつつ高卒後大阪の会社に就職。その会社が余りにも労働者の権利を無視している事に我慢ならず、数人の仲間と組合を結成し労働者の権利獲得の為に闘いました。これは主イエスに倣って生きた賀川先生の働きに感銘を受け、私も些かでも真似をしたいとの思いからでした。

しかし転機が訪れました。大阪の百貨店の電光掲示板に「神戸のＮ中学校荒れる」とのニュースが流れたのを見た時です。そのＮ中学校こそ私の卒業校だったのです。それは何か私に暗示をするかのように映りました。「子どもの健全育成に関わる仕事がしたい」と決意し、以前より村山先生から声をかけて下さっていたことから賀川記念館で働かせて頂くことになりました。

１９６６年福祉の専門職として働くために、勉強嫌いではあったが大学の通信教育で社会学部児童福祉学科を学び卒業しました。当時教会の牧師として、また賀川記念館の館長として責務にあたっておられた村山先生には、大いに鍛えられ育てられました。このことこそが今の私があると言っても過言ではありません。しかし私も結構頑固な所もあるので何回か衝突もありました。

さてこの賀川記念館在職中には学童保育の制度化、高齢者給食制度、吾妻地域福祉センター設置等の働きが出来ました、さらに神戸市立中央市民病院の院内保育園、杉の子保育園の民営化に伴い園長として、また特養真愛ホーム開設の立ち上げも担当しました。

一方法人関係では賀川先生生誕百年記念事業、定年規定や懲戒規定の導入、賀川先生献身１００年事業、イエス団災害対策委員会の設置等にも働かせてもらいました。神戸イエス団教会では役員としての勤めをさせてもらっています。

これらを今振り返りますと、取るに足らないような私でもこのように生かされ用いて下さるのは何と言っても７歳（小２）の時教会で主イエス様に出会った事に起因するでしょう。私は母子家庭で育ち小学校の一時期、生活保護受給生活もありました。しかし決して心はいじけることなく、いつも多くの友人仲間に支えられ囲まれて生きてくることが出来ました。それ故私はいつも笑顔を絶やさないように心がけております。今後も健康に留意し、もう少しだけ色々な所でボランティア活動をさせてもらいたいと願っております。

イエス団に連なる皆様、取るに足らないこんな小さな私でも用いて下さるのです。素晴らしいイエス団にどっぷりつかり「ＭＳ２００９」の実践者として対象者や利用者の方々に仕え良き働きをなして下さることを期待しております。こんなに豊かに生かされ活かされている喜びに感謝しつつ。

次の「イエス団の輪」は、京都の宇野豊さんにバトンタッチします。

**京都ブロック**
**ぶどうの木保育園　山﨑希充子**

## 「共に生き共に育つ」

この度、桃陵保育園からの『イエス団の輪』（リレー原稿）～イエス団に連なる一人としての思い～の依頼を受けて…社会福祉法人イエス団　ぶどうの木保育園の職員の一人としての日々を振り返らせて頂こうと思います。

ぶどうの木保育園に勤めキリスト教保育を考えていく中で、神さま

にいのちを与えられ、日々生かされている一人の人間として子どもたちの育ちにどう向き合っていくのか…。ぶどうの木保育園の総テーマ『共に生き共に育つ』を心に、一人ひとりの子どもの個性を大切にする保育を目指し、実践と反省を繰り返し、早いもので１６年という年月が流れていることに驚いています。

日々の保育を仲間の保育者と共に創り上げていく中で、今までたくさんのアドバイスを下さっていた先輩保育者の退職もあり、私自身、悩み躓くことも多くありました。…今現在も悩み続けています。保育していく上で、様々な角度からの視野を持つことの必要性や、伝えることの難しさに気づき、考えさせられる数年でもありました。

子どもたちは日々、友達と遊び触れあい生活する中でたくさんの喜びや怒り、悲しみ、嬉しさを感じています。そんな姿を私たち保育者は見守りながら、その時々に必要な関わりをしています。子どもと私たち保育者の関係性をじっくり考えていく中で、子どもの心身の健やかな育ちのためには共に働く保育者はもちろんのこと、保護者、地域、新たな出会いが協同し、子どもを取り巻く良き環境を創り出していくことの重要性に改めて気づかせられました。

園内の一つひとつの行事、クラスごとの取り組み、そしてぶどうの木保育園の大きな取り組みである沖縄平和キャンプ…と、取り組みのねらいをじっくりと保育者間で確認し合い計画したことが、保護者・地域の方に理解され、出会った方々に受け入れて頂くという環境が整ってこそ、それぞれの取り組みが子どもたちにとって豊かな実体験となっているのだと考えるようになりました。それだけでなく日々、私が子どもと接すると同時に、たくさんのことを保護者の皆さんから教えてもらい、日々成長させてもらっていることに感謝しています。

保育者として、まだまだ学ばなければならないことがたくさんある私が、共に保育をする仲間に支えられ、保護者の方の暖かさの中、共に育ちあわせてもらっていることに神さまの愛を感じます。

これからも、園に関わるたくさんの人との出会い、共に過ごす中で、今後の私の課題として、年々多様化していく保育ニーズにどう取り組んでいくのか、園内のみならずもっと広い視野を持って「となりびと」のために自分のやるべき事は何なのか問い、考え続ける努力をしていきたいと思っています。

次回の「イエス団の輪」は、くずは光の子保育園にお願いしたいと思います。

四国ブロック
豊島神愛館　家入　理

## 「私の中の変化」

初めまして、豊島神愛館にて保育士として働いて今年で 6 年目に突入しました、家入　理(さと)です。今回、徳島の光の子保育園さんから「イエス団の輪」のバトンを受け取り、今まで深く考えたことのない《イエス団に連なる 1 人として》の自分に向き合うこととなりました。

私が、《イエス団と連なる一人として》の自分で浮かぶのは JB フェローズの活動です。

一昨年・去年と豊島神愛館での JB フェローズの委員に選ばれ活動しました。最初の１年は発足当初でよく分からないまま過ぎ去っていった気がします。しかし、２年目の去年は四国ブロックのブロックリーダーになり 1 年目の時よりフェローズとしての活動に踏み込むことが出来た様に思っています。

保育士として働いていながら積極的に人と関わろうとしない自分が去年、ハンセン病研修に四国ブロックから 1 人で参加できたのは未だに信じられません。研修当初はどうしよう！！と不安しかありませんでしたが、研修が始まってみると勉強になることばかりで、自分の豊島神愛館での仕事についてだったり、人と人との考え方の違いや捉え方の違いについて、もちろんハンセン病について学ぶこと、得るものが多い研修で参加できて本当に嬉しく思っています。

また豊島神愛館では気が付けば、若手の中では上の年代になってしまい、後輩たちに質問される事が多い立場になってしまいましたが、《イエス団に連なる》中で見ればまだまだ全然ひよっこで、頼れる先輩たちにたくさん出会えたことがとても嬉しいです。今年は、後輩に JB フェローズの委員のバトンを繋ぎました。しかし JB フェローズなことには変わりないので何かあればまた、参加したいです。

来年度は、豊島神愛館も四国本土に移ります。そして坂出育愛館さんと一つとなり“かがわ子ども・子育て支援センター”という複合施設に生まれ変わり、新たなスタートを切ります。

新しいことが始まる楽しみや期待よりも、どきどきや不安感の方が今はまだ勝っています。そこでのわたしにとってのたくさんの『先輩』に出会えること、私自身は子どもたち含めいろんな人の『隣人』になれることを楽しみに、より一層移転準備に取りくんで行きたいです。

次号は、坂出育愛館さん、よろしくお願いします。

大阪ブロック
聖浄保育園　古川良一

## 「１０年前の自分に教えてやりたい。」

まさか、自分がこんな文章を書いているとは１０年前には考えもしていませんでした・・・。

初めまして、古川良一と申します。私とイエス団とのつながりという事でこの文章を書いているのですが、よくよく考えてみると不思議な縁です。元々、学校を卒業して、仕事を探しているときに、家から近くにあるというわけで、面接を受け、当時の園長だった吉田先生に「ここはキリスト教だけど、大丈夫」と聞かれるまで自分の人生の中でキリスト教に携わるなど想像もしていませんでした。その後、聖浄保育園に勤めさせてもらい、教会の礼拝にも参加させていただきましたが、当時はまだまだ新米だったこともあり、自分とイエス団との交わりもほとんどありませんでした。強いていうなら、「六甲山の家」の整備の時にイエス団の名前を聞いたくらいでした（しかも、参加もしていなかったな・・・）。その後、個人的にも色々あり、聖浄保育園を退職しました。これで、イエス団とも縁が切れたと思っていました。

それからも、子どもと関わる仕事がしたいと思い、小学校や中学校の特別教室のアルバイトをしたり、学童保育の指導員をしたりと色々な経験を積んでいる時に、当時の園長だった谷口先生に「聖浄保育園に戻ってこないか？」と声を掛けていただきました。とてもお世話になった（迷惑をかけた？）谷口先生に声を掛けられたのですが、その時勤めていた学童からも正規職員のお話をいただいていたので、大変悩みました。それでも、聖浄保育園に戻る事を決め、聖浄保育園に戻ってきました。

ここから、私とイエス団との第２章が始まりました。この年、初めて新人研修に参加させていただき、その参加施設の数々、そして参加者の人数の多さに、自分が所属しているイエス団という組織の大きさに驚きました。その後も東北大震災のボランティアに参加させていただいたり、豊島での夏祭りの手伝いなど保育園での業務だけでは、経験できない事をたくさん学ばせてもらいました。中でも、豊島では産廃施設での見学や、民泊での地元の方との話を通して、日本のどこでも起こりうる、少子高齢化・過疎化という問題に対して、どうするのかをとても考えさせられました。また、豊島の夏祭りでは他の地域のイエス団職員がたくさん参加されていて、楽しい話から、これからの豊島の事や自分自身の悩みなど、たくさんの交流が持て、本当に色々な刺激を受ける事ができました。

それもこれも、イエス団との「つながり」があったからこそです。１０年前、聖浄保育園を退職し、ブラブラしていた自分に教えてやりたいものです。「お前は１０年たったら、色んな経験ができるぞ」。これからもたくさんの「つながり」を大事にしながら、勤めていきたいと思います。

さて、次回はガーデンロイの松居先生にお願いしたいと思います。

兵庫ブロック
一麦保育園　安芸淳子

## 「宮っこ」

兵庫ブロック「友愛幼児園」関先生よりご指名をいただきました「一麦保育園」の安芸淳子です。私は生まれも育ちも西宮。今も変わらず西宮に在住している『宮っこ』です。今まで当たり前のように生活してきて、運よく結婚後もこの街に住み続けていられる幸せ者の一人だと感じています。

西宮といえばお酒の街、今津灯台、甲子園球場、いろいろ自慢できる場所がありプライベートでよく足を運ぶのは阪神タイガースの本拠地である甲子園球場です。そんな自慢の西宮に賀川豊彦先生が住まれていたことを知ることができたのも一麦保育園に勤めることができたからだと思います。何といっても賀川先生の元居住地は私の自転車での通勤ルートにあるのですから感慨深いものです。丁度交差点に近い場所なので、赤信号待ちをしている時にふと思い出すことがあります。

賀川先生に直接会われてお話された方である前々園長の梅村貞造先生より、当時の賀川先生のことを聞く機会があったことも本当に貴重な経験でした。そのお話の中にでてきた今でも存在する武庫川。時々園からの散歩で子ども達と出かけることもありますが、その風景は今もあまり変わることなく在り続けるということに驚きとほっとしたことを覚えています。賀川豊彦先生の生きておられた時代とは変わったこと、変わらないことの両面があるのは当然のことだと思います。けれども武庫川のように変わらないことも大切にしていきながら今を生きる『宮っこ』の一人であり続けたいと思います。

次は「のぞみ保育園」の方にリレーをバトンタッチしたいと思います。よろしくお願い致します。

### 『イエス団の輪っ』についてお知らせとお願い

■　今回のご寄稿ありがとうございました。
次号は、理事の宇野豊さん
京都ブロックはくずは光の子保育園
四国ブロックは坂出育愛館
大阪ブロックはガーデンロイ松居先生
兵庫ブロックはのぞみ保育園のご指名です。
改めてご寄稿をお願いいたしますが、その節はどうぞよろしくお願いします。

（イエス団報編集委員会）

# トピックス

## ぶどうの木保育園

ぶどうの木保育園は間もなく設立 40 年を迎え、建物の老朽化に加え、入所児童数増加の為、今年度全面改修工事を行うこととしました。改修工事を行う前に是非、全卒園児をお迎えして、“私たちをここまで育ててくれ、見守ってくれた園舎に感謝する気持ちを表す”「ありがとうの会」を 5 月に行いました。オープニングは 0 歳児から 5 歳児、卒園児が大好きなエイサー「遊び庭（あしびなー）」を演舞して開幕しました。各所に様々なブースを設け、園庭には「おやじの木（保護者会のおやじ達）」の“駄菓子屋”、“やみつき唐揚げ”、「イエス団 JB フェローズ」の“沖ハムのピリ辛フランクフルト”、園舎内には「保護者会」の飲み物ブース、「書浪人　善隆（ぜんりゅう）」の T シャツ作り、その他沖縄そば、スパム寿司、海ぶどう、サーターアンダーギー、島ぞうりなど様々な沖縄物品販売が参加者をわくわくさせていたようです。フィナーレは卒園児の保護者、保育者によるミニコンサート、「♪童神（わらびがみ）」や「♪芭蕉布（ばしょうふ）」などを三線（さんしん）の音色が心地よく、自然と口ずさむ子どもたちの姿が印象的でした。

ありがとうの会でのエイサー演舞

今年度の年間テーマは『となりびと』です。日頃の生活の中で、合同礼拝の中で、子どもたちや保育者一人ひとりの『となりびと』のことを考え、寄り添い、共に生きる喜びを感じています。今回は園舎が解体される前に、子どもたち一人ひとりの“海に生きる愛すべきもの”をホールの壁に表現してみました。

０歳児から手のひらなどに絵具を塗り付け海草を表現したり、幼児は筆を振り上げ海中の泡を表すなど様々な技法を使いました。５歳児は沖縄平和キャンプで体験している“沖縄の海に棲む愛すべきもの”を表現してみました。“辺野古の海にジュゴンがいるから基地は絶対造ったらあかんねん”、“ジュゴンをまもりたい”、“愛すべきものをまもりたい”という気持ちが、横約５ｍ縦約３ｍの壁面に上手く表現されたように感じています。

ホールの壁の愛すべきものたち

建築工事が始まり、名残惜しいものの旧園舎はすべて解体されました。現在八幡市のご厚意により八幡市立旧第五小学校を仮園舎として使用しています。校舎を園舎として使用するにはかなりの改造が必要でしたが、今現在子どもたちは仮園舎に慣れ、今までと変わらない生活が出来ています。５歳児さくら組が飼育しているブタたち（月桃（げっとう）とマブヤー）も広くなった小屋に大満足で、食べては寝てを繰り返している毎日です。来年２月末に完成予定の園舎を楽しみに待っているところです。子どもたちや保護者の方々、私たち保育者も含めて、仮園舎で生活できること、来年新しくなった園舎で生活できること、共に生き共に育ち合うことが出来ること、様々な“当たり前のようにできること”に感謝したいと思います。

データ
〒614-8362
八幡市男山美桜 6-5
TEL：075-982-9013
FAX：075-982-9013
E-mail：budounokihoikuen@diamond.broba.cc

仮園舎での園庭とブタ小屋

## のぞみ保育園

今年、のぞみ保育園は創立 34 年を迎えました。神戸市須磨区の山側に位置し、自然豊かな環境に恵まれた保育園です。特に保育園の周りには、遊歩道を通って出かけることのできる公園がいくつもあります。子ども達は、毎日のように公園へ出かけていきます。緑多い公園で、葉っぱを拾ったり、トンボを追いかけたり過ごしています。また、保育園の空高く鳶が舞う姿も時々見ることが出来ます。

園舎は、三角屋根のある平屋建ての大変こだわりのある造りで、それぞれの保育室も子ども達の遊びを大切に、クラスの担当者が環境構成をしています。また、広い園庭でののびのびと遊ぶ子どもたちの姿が、わたし達の自慢です。

しかし、この園舎とは今年度でお別れとなります。2015 年 4 月には、敷地東側に 2 階建ての園舎が建ちあがります。今までの温かい雰囲気を大切にしながら設計をしていただきました。新しい園舎の立ち上がりには色々な苦労が付き物ですね。資金面、地域の方や保護者の方への説明…。新しい園舎での新年度が無事迎えられるようにお祈りください。

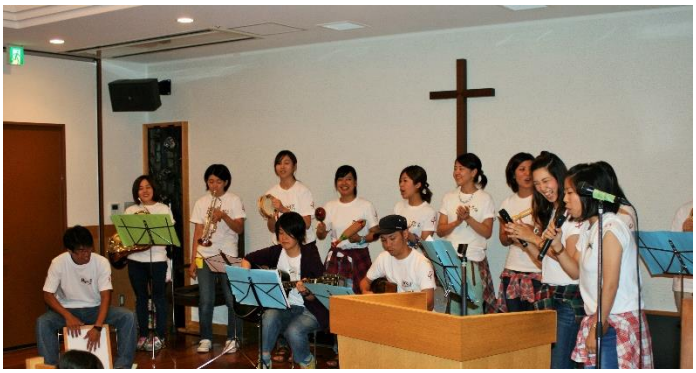
さて、のぞみ保育園は、2015 年度新園舎竣工と同時に、新制度のスタートと合わせ、認定こども園幼保連携型へ移行いたします。

イエス団の中では是非が問われるところでありますが、この地域において保育をする中で、のぞみ保育園にとって望ましい選択と考えました。経営的にメリットを考えて 1 号認定の児童を受け入れるという事ではなく、保育園では受け入れることのできない児童についても、受け入れることのできる受け皿として考えています。

また、地域の中でどんどんと活動の幅を広げることができる（現在行っている活動をさらに充実させて…）と考えています。

ところで、このようにここ数年のぞみ保育園は、変革の時でした。（現在も）それは何故かと考えた時、職員の保育に対する思いが爆発したというべきでしょう。子ども達の育ちを支援するためには、入所している子ども達だけに目を向けて満足していてはいけない。イエス団のミッションを実現するために何をしたらよいのか？　そして、職員の思いをみんなで少しずつ行動に起こしていくと、新たな課題がどんどん表れてきます。今はのぞみ保育園の活動だけに止まらず、その力はＪＢフェローズの活動、豊島との関係、また、他園との異動交流など、大きな力・働きになってきました。

ところで、堅苦しい話ばかりではなく、のぞみ保育園の楽しい仲間のパフォーマンスをご紹介します。



2014 年 8 月 29 日、天国屋カフェにてアメリカのニュージャージー州にあるジャクソンの教会のメンバーとの交流会において、吹奏楽の演奏を披露いたしました。のはずでしたが、楽器のできないものもじっとしておられず、（園長の「楽器出来るの？」の質問に「私はカスタネットができます」と言いました…。）ほぼ全員参加で歌って踊って、になりました。

のぞみ保育園の演奏の前に、京都のＭさんのプロさながらのバンド演奏があって、のぞみの職員は、かなりへこみながら、緊張しながら演奏をスタートさせました。ですが、客席の皆さんの応援があって何とか盛り上がり楽しく過ごすことが出来ました。ただ、同じころ京都でリーダーシップ研修に参加していた職員は、「次は私も出ます！」と、すでに次回を計画しているようです

この職員のパワーと団結力と実行力をもってすれば、どんなことにもチャレンジしていけると信じています。

データ
〒654-0155　神戸市須磨区西落合 7-1-1
TEL：078-791-8446　FAX：078-791-8491
E-mail：nozomihoikuen@energy.ocn.ne.jp

## 特別養護老人ホーム　真愛たきやまホーム

賀川豊彦生誕１００周年の記念行事として計画され、１９９６年１０月に賀川豊彦が献身した地に開設された特別養護老人ホーム真愛は、地域の高齢者福祉事業の担い手として、この１８年間歩んできました。

「真愛」は賀川豊彦の著作「永遠の乳房」の中の「私は神と真愛のために全てをなげうつ勇気が欲しい」という一節から取られ、賀川豊彦の思いを大切に受け継いで証するために付けられました。

そこから基本方針として、

１、 老人福祉法の理念を尊重し、介護保険法を守ります。

２、 施設を利用者の生活の場とし、介護にあたっては利用者の主体性を大切にします。

３、 地域の高齢者のための専門的社会資源であることを自覚し、地域福祉を支えます。

を掲げ、神戸市中央区内で１８の高齢者福祉事業と樟葉でのケアハウスを運営してきました。

最近では、２０１２年４月に地域密着型小規模特別養護老人ホームくもちホーム（定員２９名）を開設し、２０１４年５月には、サービス付き高齢者住宅レジデンス神仙寺（定員２７名）を開設してきました。

この度、賀川豊彦生誕の地である神戸市兵庫区の山手に全室個室のユニットケア型の入居定員８０名、ショートステイ１９名、デイサービス１５名の特別養護老人ホームたきやまホームを１１月に開設しました。

施設は、地上６階建てで、１階には厨房等があり、２階にはエントランス、受付、事務所、デイサービス等の施設があり、３階から６階の各フロアには２ユニットの入居施設があり、１つのユニットには、リビングルーム（約７０㎡）を１０の個室が取り巻くように配置され、それぞれの個室には、ベランダがあり、部屋の広さが８畳くらいで、トイレと手洗いが付き、３モーターのベッドが備えられており、入居者が大切にしてきた家具等も置けるようになっています。

地理的には、たきやまホームは、ＪＲ神戸駅から鵯台団地やしあわせの村方面に行く途中にあり、交通の大変便利なところにあります。

施設の運営理念は、真愛ホームと同じく

１、 その人の今を大切にし、

２、 その人の普通の暮らしを守り、

３、 その人の最後まで寄り添います。

を掲げ、介護や支援を要する人の側に立ち、常にひとり一人を大切に運営していきたいと願っています。

### データ

〒652-0056

神戸市兵庫区滝山町 511

TEL　078-595-9401(代)　FAX　078-595-9471

# J. B. フェローズ活動報告

## 京都ブロック

２０１４年度Ｊ．Ｂ．フェローズ京都ブロックの活動は
①「発達障がいに関する意見交換会」
②「給食に関する意見交換会」
③「ＪＢＦ京都全体交流会（ＪＢＦ京都大作戦２０１４）」
④「豊島研修」「長島愛生園研修」
の４つの活動を主に行ないました。

①に関しては、前年度は各施設の巡回相談の様子についての確認と高木恵子先生の講演会を行いましたが、今年度は更に具体的に考えていければ…との思いから、各施設の困難事例報告とその事例に関して高木先生から具体衣的なアドバイスを頂く勉強会を行うことになりました。勉強会にむけて、事前の高木先生との話し合いの中でも多くの気づきがあり、貴重な時間となりました。（勉強会は１/１４（水）予定。京都ブロック以外のイエス団職員の方の参加も OK です）

②に関しては、年２回定期的に集まりを持ち、離乳食や乳児の朝のおやつ、夏場等大量のお茶の冷やし方、虫の駆除の方法や食材費について等様々な給食に関する疑問にアドバイスをしあう時間になっています。

③に関しては、１１/８（土）に桃陵保育園ホールにて行われました。

「交流」をテーマに、食事をしながら、普段出会うことがない人と色々お話をしたり、６人集まってお互いの得意なところを集めて何かできないか？と考えてみたり、と誰でも楽しく参加できるような内容となりました。

④に関して、豊島研修は、「イエス団３施設合同夏祭り」「瞳保育所収穫感謝の日」にといった行事に参加し、交流の時を持ちました。

長島愛生園研修は、資料館の見学、当事者の方のお話、園内の見学、当事者の方々との懇親会を通して、ハンセン病の正しい理解と当時の時代背景の中での療養所とは何だったのか？を知ることができる貴重な機会となりました。翌日は回春寮の掃除を行い、これからも継続して研修を行う事を確認しました。

２０１４年度は、Ｊ．Ｂ．フェローズ京都の活動が次の段階に入った年だったように感じています。これからもＪ．Ｂ．フェローズの活動はより柔軟に一人一人の大切な「声」に耳を傾け、実践していきたいと考えています。

報告：京都ブロックリーダー：
障がい児・者ホームヘルプ事業『ゆうりん』森　拓平

## 四国ブロック

四国ブロックは、坂出・豊島・徳島と施設が離れているため、交流することが難しい現状です。

そこで今年度は、夏まつり・クリスマス会などの行事の、時に各園の子どもたちが装飾などを製作し送りあうことでつながっていこうと企画しました。「喜んでもらえるとうれしいな」との思いを込め、一緒に製作し送りました。また、子どもたちや保護者・職員も送られてきた作品に、心温まる思いを感じています。

７月には、四国ブロックの活動の域を超え、他ブロック法人施設のＪ．Ｂ．フェローズや職員の方の参加もあり、豊島３施設合同夏まつりが開催されました。交流を深め楽しい時間が過ごせたことをうれしく思います。

来年は、神愛館が坂出に移転となり、豊島では瞳保育所とナオミ荘の２施設となります。今年以上に、Ｊ．Ｂ．フェローズを中心に各施設の職員のみなさんで協力し、盛り上げていきたいと思います。

また、９月の敬老の日には光の子と育愛館の子どもたちで、ナオミ荘へおじいちゃん、おばあちゃんの絵を、また瞳保育所と神愛館の子どもたちで訪問・交流をしました。ふれあい遊びや歌を歌ったりしながら楽しくあたたかな時間を過ごすことができました。

Ｊ．Ｂフェローズ四国が　発足して３年目ですが、他のブロックの方々のアドバイスもいただきながら、今後も意欲的に活動していこうと思います。

なお１１月には、１泊２日で豊島の方々との交流や、瞳保育所での収穫感謝祭の企画がされています。J.B. フェローズが中心となり、たくさんの職員のみなさんの参加を募り、盛り上げてくだされば さいわいです。

夏まつりの参加だけでなく、子どもたちの作品を送りあうなどの活動も継続し、園同士のつながりをこれからもより深めていけるように計画をたて盛り上げていきたいと思います。

報告：四国ブロックリーダー　　坂出育愛館　鎌田　志保

# 大阪ブロック

２０１４年度の大阪ブロックの活動は

①　施設訪問を行うことで理解を深め、お互いの学びとする

②　職員通信を発行してつながりを深める

③　タオルを継続して販売し、震災復興支援を行う

この３点を中心に進めてきました。

**①施設訪問**

●「７月３日（木）馬見労祷保育園公開保育」大阪ブロック７名参加

子ども達とも関わりながら各クラスの様子を見せていただきました。

お昼の時間には、職員の方との意見交換会を行い各施設の話を聞くことでそれぞれの学びや刺激となりました。

●「豊島３施設合同夏祭り・長島愛生園研修」

四国、京都、兵庫ブロックとともに協力し参加させて頂きました。

今後も大阪ブロックでできることを考え取り組んでいきたいです。

●「１０月２５日（土）　ガーデン天使見学」大阪ブロック８名参加

施設の見学や取り組んでいる内容などを聞くことでそれぞれの園で生かせるところなどにも気づけ良い交流の場となりました。

**②職員通信第８号発行（9 月中旬）**

内容：・馬見労祷保育園公開保育見学報告・ハンセン病研修報告

・梅を使った取り組み紹介・各施設の春 or 夏の取り組み紹介

・キリスト教Ｑ＆Ａ

**③震災復興支援タオルについて**

昨年度作成したタオルを今年度も引き続き販売しています。各施設、文化祭や夏祭り・バザーなどの行事で販売し保護者・利用者への協力を呼び掛けています。

馬見労祷保育園交流会の様子

報告：大阪ブロックリーダー　天使保育園　江田真弓

# 兵庫ブロック

Ｊ．Ｂ．フェロ－ズという形でブロック毎に活動を始めて４年目の今年度はこれまでのつながりをさらに深めていくことを目標に活動しています。今年は、Ｊ．Ｂ．担当者もほとんどが新メンバーです。この出会いがまた、JB 兵庫の大きな力になることを感じているところです。

**①　交流会の開催**

→去る９月２７日（土）に賀川記念館で開催しました。ブロック内での交流会３回目となる今年のテーマはブロックとして取り組んでいた「ハンセン病」の研修を行いました。はじめから「ハンセン病」に関わっていた「Ｊ．Ｂ．フェロ－ズメンバーの小関さんにお話しをして頂きました。

一言で「ハンセン病」といっても病名は知っていてもほとんどの人が知らないということもあり、正しく知ってもらうために、はじめにＤＶＤを見てそれから、小関さんから「長島愛生園」に行って入所者の人から聞いたお話しや感じたことを話してもらいました。話しを聞いて各グループで感じたことなどをワークしてもらいました。実際、ＤＶＤを見て本人も家族もつらい思いをしていたことに驚いたという意見がでました。今回の研修でもっと「ハンセン病」のことについて知りたいと思える時間となりました。

第２部は親睦会。今年はどのグル―プも最初から話がはずんでいる震囲気が感じられ、また一つ、つながりが深まったのではないと思います。今回も途中で、万歩計振りゲーム・○×ゲーム・しりとりゲーム・じゃんけん大会があり、各グループともチームの良さを発揮していました。この日を通して、今年のテーマ通り「つながり」を感じることの出来た会になりました。

**②　　施設訪問研修**

→今年度は、９月１６日（火）神視保育園で行われました。運動会に向けて，２歳児から５歳児まで体育遊びを見せて頂きました。各クラス“テーマ”があり、その“テーマ”により各クラスで子ども達は一生懸命、汗をかきながら頑張っている姿がとても印象的でした。また、１月にはみどり野保育園でも予定しています。

**③　　東日本大震災・復興パーカーの販売**

→　今年も各園にＴシャツの追加販売をしました。去年度は、長袖パーカーを販売しましたが、今年も第２弾として、各園へ販売をしたいと思います。また、皆様のお力添えを頂きたいと思います。

**④　　豊島との関わり**

→　今年は７月２０日（土）豊島３施設夏まつりに参加しました。兵庫ブロックからは出し物として「上に向いて歩こう」の歌を歌いました。みんなが知っている歌だったので「ナオミ荘」の方もロずさんでおられました。参加した保育士一人一人がこの出会い・経験を大切に帰ってきました。これからもつながりを大切に、さらにそれが広がり、深まっていくことを期待しています。

報告：兵庫ブロックリーダー　杉の子保育園　鈴木明美

# 表紙写真の解説

左上からキャプション

クリスマス礼拝でのキャンドルサービス
杉の子保育園

みんなでクリスマスリース作り(収穫感謝祭にて)
瞳保育所

1～3歳まで3年間一緒に過ごす担任とおさなごと
杉の子保育園

鏡にチュッ
天隣乳児保育園

ミッションステートメント2009
エコキャップ収集活動　2014.10月末現在、288,521個
ポリオワクチン353.1人分、2,225kgの$CO_2$を削減しました。
馬見労祷保育園

カヌートリップ　YMCA六甲キャンプ場にて
神視保育園

神様の恵みに感謝
馬見労祷保育園

虐待された児童のファミリーホーム完成。
9月9日に献館式を行いました。2015年4月に開所予定です。
ガーデンエルロイ

お魚講習会:魚に触って遊び、おいしく食べましょう　タコをさばこう！
兵庫県漁業協同組合連合会による出張食育の様子
甲子園二葉幼稚園

小さな生き物にも命がある事を知り、慈しむ心を大切に
一麦保育園

イエス団報編集委員会では、ミッションステートメント２００９の実践写真を全施設に向けて募集しております。
次号に向けてもよろしくお願いします。

１７号　編集後記

「ピリピ人への手紙２章６－１１節」には、イエスの降誕を「神のかたちを捨てて、しもべのかたちをとられた。」とあります。

イエスは、人に「仕える人」、「奉仕者」となって神様の愛を示してくださいました。

イエス団創設者　賀川豊彦は、２１歳の１９０９年１２月２４日にイエスに倣い、貧困の中にある人々に仕えるために神戸・新生田川地区に身を投じてセツルメント運動を始めました。

今年も多くの方々に支えられ、祈られて歴史を刻んできたこの創立記念日にイエス団報第１７号を発行することができました。イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

イエス団報編集委員会